

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

協力: 金沢ホースマンクラブ
賛: 金沢競馬振興協議会
発行: 遊駿 + 編集部

遊駿 plus

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

十月二日(火)

第三十八回 **白山大賞典**
(JpnIII)

出張ウマフリ

その勝利の味は

ウマフリ代表 オガタKSN

おしえて! 吉原先生

テン乗りで結果を残すには?

表紙: ムーンファースト
Photo by Haruka

2018年 9月

vol. **38**

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

おしえて、 吉原先生



Q: テン乗りで結果を残すには?
それから、二一〇〇mって?

白山大賞典はJRA、他場の人馬が遠征して来る。そうなるに慣れない馬場と人馬の兼ね合いがどうなるかで馬券検討にも影響が出そう。

そこで遠征と言えはこの人。今年の石川ダービーを実戦どころか調教にすら跨っていないかったアルファードティファで制した吉原寛人騎手にその辺りの事を聞いてみました。



「初めて乗るって事で馬の癖とか動きとかやっぱり知らないのので返し馬で感触を掴みますね」

あの僅かな返し馬の時間で騎乗する馬の感覚を掴んでいると言う。

「あと、先生や前に乗っていた騎手に感触やアドバイスを聞いたりして、それを元に返し馬で癖や感触を掴むかな。あとは自分の引き出しの中から掴む。ある意味シンプルに考えて乗ります」

日本全国津々浦々、様々な競馬場で騎乗し、様々な馬に跨って来た経験があつてのテン乗りでの高パフォーマンス。そこはさすが吉原騎手と言った感じ。

乗り慣れているお手馬と比べるとやはり乗りやすさは違い、結果を出すのも大変そうだが。

「(お手馬は)ここまでしか脚を使えないと思っちゃうとそれ以上の足を使おうとしない。だから、先入観がない方が最大の力を出せる時があるかな」

よくわからない部分があるからこそ未知の力を発揮して好成绩につながる事もあるようです。

「ある程度(馬の力を)知ってしまふとそのキャパの中でしか脚を使わなくなる。それを破って使おうと思っても使えない事もある」

手の中に入れてしまうと乗り手が勝手に実力の限界を作ってしまったそれ以上の力を出せなくなる。テン乗りで好結果を残す騎手は先入観に囚われずに冒険ができる騎手なのかもしれない。

では、乗り慣れない競馬場に乗る時に気を付ける所は。

「コーナーの角度、回り方、直線の距離、砂の深さ、内外の差色んな競馬場がある。その時の馬場状態を全て頭に入れて最善のレースを組み立てます」

テン乗り同様、やはり情報が肝心と言った所。ちなみに吉原騎手は大体の競馬場の癖は全部頭に入っていて慣れない競馬場への怖さはないと事。さすがの一言。

馬の方は慣れない競馬場での走りはどうなのか。

「馬にもよる。それと、いい走りができる状態に持っていける厩舎の力が大切。遠征慣れしている厩舎かどうかを見るといいかも」

遠征で結果を残す厩舎にはやはりそのノウハウや経験の蓄積がある。遠征馬がぶつかり合う交流競走ではその差が大きく出るのがかもしれない。



白山大賞典の距離二一〇〇mは年々そう何度も行われない舞台。遠征も地元も条件は同じように見えそう。

「力の差がしつかり出る距離。直線も長いから外枠でもどこかで内に潜り込んだりして上手くできる。テクニクを生かせる。スピードだけではダメ。バテチャウ」

馬の力、騎手の力が存分に発揮できる舞台。それが金沢の二一〇〇mと言う所か。その傾向はJRA勢と二十一連勝中と言う現状が如実に表している。

そんなJRA勢でも案外、と言う事も。この舞台が合う馬と言うのは。「テンのスピードとスタミナ、これが強ければ。例えば一八〇〇を八ナで行けるような馬」

無論、JRAで差し追い込みでもスピードの違いで行けてしまふ馬もいるだろう。JRAの舞台での戦歴で金沢に合うか合わないかを見極める事もできそう。

あとは金沢で騎乗して「世界一砂が痛い馬場ネ」と某外国人騎手が評したと言う程に砂の荒い馬場で気持ち折れずに走れるかどうか。馬の精神力、騎手の技術が問われそう。

「ホームアドバンテージはある」

と言う吉原騎手。その腕で白山大賞典を、金沢競馬をこれからも盛り上げるように期待をしたい。ホームの意地、全国に見せてくれ、金沢競馬!

編集後記

今回の「遊駿」では、インターネット上のフリーペーパー「ウマフリ」の代表オガタKSNさんに寄稿を頂きました。

インターネット上で活躍される方とのコラボに刺激を受けたと同時に、ネット媒体と紙媒体での記事の書き方や体裁の違いも覚えました。そんな違いが融合した今号は一体どんな事になるのか。楽しくも心配な製作期間でした。

そしてこれは、地方競馬と中央競馬との交流競走に似ている部分があるのかな、とも思います。

調教の方法、設備の違い、砂の違いに戦法の違い。様々な違いは自分にとつて不利にも有利にもなるかもしれない。それを踏まえて全力でぶつかり面白い勝負にする。

交流競走は中央馬の独壇場ではない、と言う意見があります。確かに中央馬は強いけどもこの僅かな違いを生かして地方馬が一矢報いるかも、と想像すると交流競走は面白く思えるはず。結果はともかく。

今回、ウマフリさんからこのお話を頂いた時には「紙上白山大賞典」と勝手に思っていました。さて、その結果はどうでしょうか。実際の白山大賞典のように中央勢の連勝が続いたのか、それとも。改めてウマフリ編集部の皆様、ありがとうございました。



その勝利の味は

ウマフリ代表オガタKSN

金沢競馬のスターが中央馬に挑み、そして敗れ、また新たなスターが現れその夢を繋いでゆく……白山大賞典とは、金沢所属馬の夢だと、私は思う。そしてその夢の達成に、一番近づいたであろう馬について、書こうと思う。

その馬の名前は、ビッグドン。第二十七回白山大賞典の『覇者』だ。

二〇〇七年八月十六日、埼玉県熊谷市・岐阜県多治見市が日本観測史上最高気温を七十四年ぶりに更新した。しかし同日、競馬界にとって嬉しくない『三十六年ぶり』が発生していた。——平成最初の、馬インフルエンザだ。適鞭を求めて全国各地へ遠征をする平成の競馬は、その被害拡大を助長した。メイショウサムソンは凱旋門賞挑戦を断念し、札幌・新潟・小倉の中央競馬も中止となる。異例の対応が続ぎ、競馬界全体が揺れた。そして中央競馬で発見された馬インフルエンザは金沢の地にも辿り着く。

金沢競馬の大一番・白山大賞典の歴史は一九八一年にまで遡る。初回こそ二三〇〇mでの施行だったが、第二回以降は二六〇〇mという

「ダート長距離戦」で開催。全国的にも希少なダートの長距離戦における代表的なレースのひとつとして、年々存在感を増していた。当時の勝ち馬には、ワカオライデンをはじめ、リワードパンサー・キタシバスイ

ン・ミスタードルフといった各時代の金沢競馬を盛り上げた名馬たちがズラリと名を連ねる。一九九七年に交流重賞となつて以降は二一〇〇m戦となり中央馬の優勝が続いているが、それでも『金沢競馬の大一番』という位置づけは変わらない。

優勝こそないものの、地元金沢所属馬の『夢』として、その頂を各時代のスターが目指し、善戦してきたレースでもある。

ビッグドンのデビューは二〇〇二年。中央所属馬として芝の新馬戦を走った。その後はダートに転向し、ビッグドンは中央で六勝する活躍をしたが、六歳という年齢もあり陣営は新天地・金沢への移籍を決断。白山大賞典四着のテンリットルを管理する服部健一調教師のもとで百万石賞を制覇すると、白山大賞典に出走。隊列が何度も入れ替わる難しい展開をうまく捌き、二着に善戦した。これは、前年度覇者のグラップユアハートや東京大賞典勝ち馬のスターキングマンに先着する大健闘だった。その実績を評価されたビッグドンは、金沢競馬の年度代表馬の座を射止めて二〇〇六年を締めくくる。

そして、あの二〇〇七年がやってきた。その年のビッグドンは、金沢を飛び出し全国区での挑戦を重ねていた。中央の平安Sでは十三着に敗れたものの、G1馬カフエオリンポス

や後のG1馬バンブーエールなどには先着。名古屋大賞典ではサイレントディール、帝王賞ではフジノウエーブやトーセンジョウオーに先着し、金沢の雄として一目置かれる存在になっていた。

一方、地元金沢でも半年間で四戦三勝。

この勢いは、きつと本番の白山大賞典でもとどまらない、そう思わせてくれるものだった。明らかに前年以上の出来だと、私は感じていた。今年こそ、金沢所属馬の勝利が見られるのでは、と。

金沢競馬が中止が発表されたのは、二〇〇七年八月十八日のことだった。その日三頭の金沢所属馬から陽性反応があり、まずは翌日から陽性反応が中止とされた。追加の検査を実施し終えた二二日には、金沢競馬所属馬の約二割（一一七／五四九頭）から陽性反応があったという発表もあり、被害の拡大の深刻さが浮き彫りとなった。結局開催が再開されたのは九月に入ってからのことだった。そして影響を加味し、交流重賞・

白山大賞典は中央を含む他地域からの参戦受け入れを取りやめ、金沢限定での開催となった。優勝賞金も二五〇〇万円から四〇〇万円に減額。賞金総額は五六〇万で、ビッグドンが前年二着で獲得した八七五万円を下回っていた。

九月二日には追いつちをかけるかのように、第七回白山大賞典勝ち馬・ワカオライデンの計報も飛び込んだ。やるせないような、暗いニュースに負けてはいけないような……様々な想いを抱いて、十月九日、九頭の金沢所属馬が白山大賞典に集まった。

単勝一・三倍に支持されたビッグドンは……そしてその陣営は、どのような気持ちだったのだろうか。彼のピークはきつと、この日に向けて上昇曲線を描いていたはずだ。

レースが始まると、ビッグドンは余裕ある先行から早めに先頭へ躍り出て、そのまま圧勝。二着馬には五馬身の差をつけていた。その二分一六秒三という勝ちタイムは、前年に自身が出したタイムを上回るどころか、二〇〇五年度の勝ちタイムを上回るような好タイムだった。私は、金沢のスターが悲しいニュースを振り払う快走をした事を喜ぶとともに「これなら、もしかすると……」という思いを振りきれずにいた。白山大賞典勝ち馬でありながら、

交流重賞の白山大賞典勝ち馬ではない、ビッグドン。その目にはどんな風景がうつっていたのだろうか。そしてビッグドンは二年連続の金沢競馬年度代表馬に選出される。地元で圧倒的な強さの彼は、素晴らし

いスターだった。競馬に「たら、れば」を言うのは野暮である。野暮である事をわかった上で、それでも口にしたくなる「もしも」もある。あの年の白山大賞典は、まさにそんなレースだった。

十一歳になったビッグドンは、ラストランを十着で終えた。そのレースの覇者もやはり、ジャンゲルスマイルだった。新しいスターへのバトンは渡し終えていた。しかしそのジャンゲルスマイルも五度白山大賞典に挑戦するも、二着が最高着順のまま十一歳で引退。二〇一八年、

今もまだ、交流重賞・白山大賞典の勝ち馬には中央馬の名前だけが並ぶ。スマートファルコン、ニホンピロアワーズ、エーシンモアオー、ケイティブレイブ……。この錚々たるメンバーに、いつかきつと金沢所属馬が名を連ねるだろう。ビッグドンやテンリットル、ジャンゲルスマイル達の意志を受け継ぐ名馬が、きつと。その日が来るのを楽しみに、毎年の白山大賞典を待つのだ。中央馬と金沢所属馬、そして全国の地方馬が、二一〇〇mでしるぎを削り合う、あの大一番を。

去年の 白山大賞典 振り返り

不良馬場で行われた昨年の白山大賞典を振り返ってみたい。

一番人気は前走JpnIかしわ記念二着に入った実績馬インカンテーション、二番人気に中央地方海外を問わず重賞で善戦を続けていたクリノスターオー。地方勢では統一重賞で中央勢と互角の戦いを続ける名古屋のカツゲキキトキトが五番人気となった。



インカンテーション Photo by Haruka

追走して先頭集団を形成。地元勢を含む中央勢はほとんど離されて一周目スタンド前に差し掛かる前には大きな差がつけられた。

二周目向こう正面入り口でクリノスターオーが早くも引き離そうとするもインカンテーションがぴったりマークして離れない。三番手以下がじりじりと離れていき、二頭のマツチレースの様相を見せる。

向こう正面出口でインカンテーションが前に出て引き離しにかかり、クリノスターオーとの差が広がっていく。そしてそのまま二馬身半差をつけてゴール。その間に三番手のカツゲキキトキトが盛り返してクリノスターオーを抜き去って半馬身差つけて二着に入った。

ずっと言われている「前が止まらない金沢の馬場」。スタートダッシュを決めて前目で競馬を進めて押し切るという金沢戦法が不良馬場で余計に表れたかのような展開。

しかし、早めに抜け出しを図って三着に終わったクリノスターオーを見ればただ前へ行けばいいという訳ではない。レース展開や馬場状況馬の調子を見てその都度的確なレースプランを組み立てて実行する騎手の経験や腕も大きく表れたように見える。

今年の白山大賞典はどうなるか。当日の天気、馬場情報には特に注意をしたい。

ミニデータルーム — 金沢古馬重賞篇 —

白山大賞典への道、過去の重賞を振り返ってみたい。(馬齢はレース当時のもの)

◇◇◇◇ 二〇一七年 ◇◇◇◇
北國王冠(二六〇〇m)

一着 グルームアイランド(牡六歳)
遠征馬二頭を前にして余裕の先行抜け出し。長距離レースではまだまだ負けられない。主戦場を南関に移しても一番似合う舞台はここだ。

◇◇◇◇ 二〇一八年 ◇◇◇◇
中日杯(二〇〇〇m)

一着 メイジン(牡六歳)
マイペースでハナを行く、自分の競馬ができればとことん強い競馬を見せてくれる。この距離この舞台、統一重賞でもできればきつと。



メイジン Photo by Haruka

◇◇◇◇ 二〇一八年 ◇◇◇◇
金沢スプリングC(二九〇〇m)

一着 ムーンファースト(牡四歳)
昨年の西日本ダービー二着以降結果が出ていなかったが、古馬重賞で見事復活の走り。ハナを切れば前は譲れない。

◇◇◇◇ 二〇一九年 ◇◇◇◇
百万石賞(二二〇〇m)

一着 マイネルリポーン(牡八歳)
ハナを主張した二頭が共倒れ。中団から押し上げて行つて八歳、八四戦目での初重賞制覇。二二〇〇mの勝ち方はこれだ。



モズオトコマエ Photo by ゆうか

◇◇◇◇ 二〇一九年 ◇◇◇◇
イヌワシ賞

(白山大賞典TR 二二〇〇m)

一着 モズオトコマエ(北海道牡四歳)
地震の影響を懸念されたが何のその。大逃げ打たれてもきつちり半馬身差し切る強い走り。あと一〇〇m伸びた舞台でその末脚見てみたい。

▼ウマフリとは？

『競馬の楽しさを、全ての人へ』をモットーに多彩な執筆陣が様々なブログを上げているインターネット上のフリーペーパーです。

掲載されているブログには中央や地方、海外の競馬情報はもちろん、競馬場グルメ、馬やそれに関わる人々、アートなどの馬事文化、イベントレポート等馬に関わる多様な内容が揃っています。

公式ツイッターでは日本酒情報が馬の記事以上(?)に充実する事もあります。

また今号の「遊駿」には、ウマフリ代表のオガタKSN氏より寄稿いただいた記事を三面に掲載しています。氏の白山大賞典に寄せる想いを、ぜひご一読ください。

競馬初心者もベテランも読みごたえのある記事が揃うウマフリ。一度「ウマフリ」で検索して覗いてみてはいかが？ 覗いて夢中になって時間を大量に奪われる事になるかもしれませんけどね。

■ウマフリ公式サイト

<https://www.uma-furi.com/>

■ウマフリ公式ツイッター

@Uma_Free



競馬ブログ&WEBフリーペーパー